

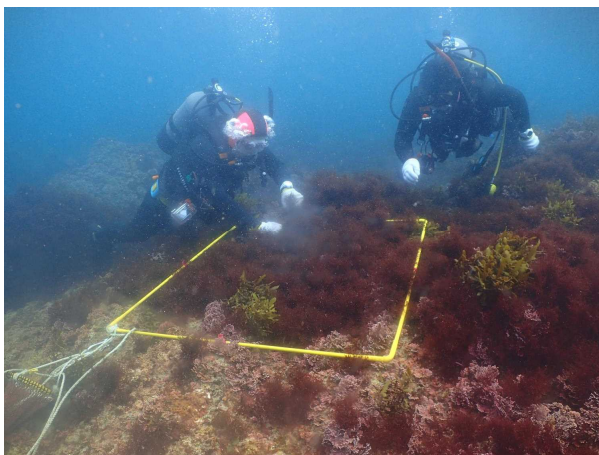
令和4年6月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

## 令和4年のテングサ作柄予測

令和4年漁期のテングサ作柄調査を伊豆地域の11地区26か所で、3月上旬～4月下旬に実施しました。調査では目視による観察と1m<sup>2</sup>の範囲のテングサを採取して総重量と平均藻長を把握しました。調査の結果、漁場によって着生量に増減がみられましたが、伊豆地域全体としては、前年より「やや増加する」と予察されました。また、漁場全体を通してマクサが減少している傾向にありました。

テングサ漁業は、従事者の高齢化等による労働力不足や漁業利用低下による漁場の荒廃（雑藻の増加）、黒潮大蛇行の影響などの問題を抱えています。漁業者の積極的な採取により、今漁期の生産量の増加と漁場の回復を期待します。

解説：本県は全国有数のテングサ生産県で、令和3年の生産量は千葉県(133トン)に次いで全国2位(47トン)です。県内では伊豆半島のみで生産され、主な産地は西伊豆町仁科、伊豆市土肥です。



↑ 枠取りによるテングサ調査の様子

## 熱海地区でヒラメ稚魚を放流

大熱海漁協（熱海、上多賀）という漁協網代支所では、4月26日に県温水利用研究センター産のヒラメ稚魚（約30mm）を受入れ、漁業者による中間育成を実施してきました。3～4週間の育成後、放流に適した約60mmに成長したことから、5月17日（熱海）、26日（網代）、27日（上多賀）に計数と放流作業が行われました。放流尾数は3地区合計で1万6500尾でした。放流魚が成長し、各地区の漁獲量が増加することを期待しています。



↑ 水槽から稚魚を取り上げる様子



↑ 稚魚の重量測定

## アントクメの養殖に向けて

近年、西伊豆地区ではアントクメ（地元で「しわめ」や「とんとんめ」とよばれる）の生育が低調で漁獲量が減少しています。このため、同地区の漁業関係者は、昨年度からアントクメの養殖試験に取り組んでいます。

5月27日に今年度の計画会議が開催され、不調に終わった昨年度の結果を踏まえ、方法や場所を再検討するとともに、陸上水槽での種苗育成から沖出し試験までの具体的な計画を検討しました。2年目の挑戦になりますが、来年3～4月には収穫できるよう、伊豆分場も取組を支援していきます。



↑ 計画会議の様子



水槽で育成中のアントクメ↑

**6月の予定** ●伊豆山港へ磯焼け対策の海藻種苗を出荷（2日） ●調査船磯丸によるバラムツ捕獲調査（8～9日）  
●キンメダイ食害対策のための煙火講習会（賀茂地区30日） ●キンメダイの親魚採捕、人工ふ化・仔魚飼育試験  
●伊豆各地でマダイ中間育成が開始

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。